

(様式2-2)

令和7年度「校内サポートルーム（KSR）研究指定校事業」 成果報告書

1 指定校・指定校群 ( さぬき市立志度小学校 )

2 実施内容

社会的自立に向けた、安心して登校できる環境づくり

(1) KSRの配置と動線

前年度から継続してKSRは保健室に近い場所に設置し、保健室横の出入口を用いることで、他の児童の目を過度に気にせず入室できるようにしている。駐車場からも近く、送迎時の利用にも適した配置とした。登下校の度に保健室前を通ることで、養護教諭との関係作りにもつながっている。

(2) 室内環境の整備

管理職やスクールカウンセラーとともに環境整備を行い、担任、教育相談担当等と連携しながら運営した。教室とは異なるリラックスできる雰囲気、くつろぐ場と学習する場を分け、児童の気持ちや活動内容に応じて過ごし方を選べる環境とした。レイアウトは実態に応じて柔軟に調整している。



(3) KSRでの活動内容

その日の予定を一緒に確認し、見通しをもって過ごせるようにした。行事や学級活動へ参加したり、基礎的な学習、作品づくり、協同活動、休息など、多様な選択肢の中から、自分のペースで活動したりできるよう支援した。テストなど集中が必要な場面では衝立を使用し、同じ部屋でも安心して取り組めるよう配慮した。4月当初は登校自体に不安のある児童もいたため、「いつ来ていつ帰ってもいい」というメッセージを丁寧に伝えた。KSR担当が配置されていることで、きめ細やかな対応が可能になり、「登校すると下校まで帰れない」と言う不安が減ったことで、徐々に安心して登校できるようになった。安心して登校できるようになると学習に向かう時間も増えた。また、活動の楽しさや友達とのつながりが登校の目的になることで、登校時間が早くなったり、友達と歩いて下校したりするようになった。友達との関わりが増え、自己中心的な傾向のあった児童が、相手を気にかける言動を見せるようになるなど、社会性の面でも成長が見られた。



(4) 在籍学級とのつながり

担任と日々情報共有を行い、給食当番、清掃、学校行事など、できる範囲の活動への参加を促した。KSR担当が担任と連携し、時間割や活動内容を確認して伝えたりすることで、児童自身が参加方法を選んだり、見通しをもって活動に参加できたりするようになった。学級や友達とのつながりを大切にするすることで、所属感や自信の回復につながった。

### (5) 組織的な支援

管理職、担任、KSR担当、養護教諭、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、心の相談員等多くの職員が関わり、多様な専門性をもつ教職員が連携することで、様々な視点から子どもを支援できるよう体制を整えた。2年目には、1年目と同じ環境で同じKSR担当が継続して関わることで、環境の変化が大きい年度初めにも、児童は安心して登校を続けることができた。

### (6) 中学校との連携（本年度の重点）

今年度は進学に向けた連携を重点的に進めた。児童が中学校で頑張りたいことや不安に感じていることを聞き取り、中学校とも支援体制の連携をすることで、不安を軽減し、安心して進学できるよう支援した。SCやSSWから中学校の情報を得るとともに、保護者・児童との面談や中学校見学を行い、必要な支援と児童の様子を共有した。児童とは校舎案内や授業の様子を実際に見て回り、進学後の生活を具体的にイメージしやすくなるよう支援した。また、保護者を交えた面談を複数回行って支援方針を整理し、環境面や人的支援の調整を事前に進めた。さらに管理職が中学校を訪問し、進学後の受け入れ体制や教室内の環境を確認するなど、安心して中学校に進学できるよう校内外で連携を図った。

## 3 成果

### (1) 校内サポートルームにおける児童生徒の様子

環境づくりを進めたことで、児童の表情や行動に落ち着きが見られ、安心して過ごせる時間が増えた。欠席がゼロになった児童や、登校が不安定だったものの徐々に登校できるようになった児童も見られた。また、KSRを経由することで教室に入れるようになった例もあった。友達との関わりが増えるにつれ、友達の出欠や登校時間を気にかける姿が見られ、「友達と遊びたいから登校した」「学校が楽しい」「KSRがあるから登校できる」といった声も児童から聞かれた。また、登校の安定や生活リズムの改善、学級・友達との関わりの増加、家庭で学校の話が増えるなど、学校生活での前向きな変化に対して、保護者からも喜びの声が寄せられた。友達との関係が築かれることで、保護者の付き添いが減り、自立にもつながった。活動を通して自分で選んで行動する姿が増え、自己肯定感の高まりも感じられた。



### (2) 校内サポートルームにおける活動及び支援の工夫

児童の実態を日々の様子から丁寧に見取り、担任と連携しながら活動内容や支援方法を適宜調整した。活動の選択肢を広げることで、児童が自分に合った取り組みを選び、主体的に取り組む姿が増えた。在籍学級や中学校とのつながりを大切にし、学校生活全体の見通しがもちやすくなるよう意識して支援を行った。

### (3) 総括

KSRは、児童が安心して登校し、自分のペースで学んだり人と関わったりできる場として機能したと考える。今年度は特に中学校との連携を強めたことで、進学への不安の軽減につながり、継続した支援の見通しをもつことができた。2年目の継続運営により、年度当初からスムーズに学級へ入ることができた児童も多かった。安心して登校できる環境が継続していくことで、担任や学級が変わる新しい環境でも欠席が増えることなく、期待感を持って落ち着いて学校生活に慣れることができた。また、KSRには安心して過ごせる雰囲気があり、新たな利用児童が来た際にも、既存の児童が自然に関わったり助けたりする姿が見られた。友達との関わりから励まされることも多く、緊張が和らいだり、学校のリズムやきまりを覚えたりするなど、学校生活への適応が進み、早期の復帰につながる例もあった。

再登校や教室復帰だけを目標とするのではなく、児童自身がKSRで安心して過ごし、自分のペースでできることを少しずつ増やしていくことを大切にしながら、それぞれの児童が確かな成長を見せた。子ども一人ひとりにとって何が必要かを日々考え、関係者と連携しながら支援を行っている。今後も、児童が安心して過ごせる「安心基地」としての役割を大切にしながら、実態に合わせた支援を継続していきたい。